

漢方セミナーを 開催して

東京女子医科大学 東洋医学研究所 (東京都) 木村容子

● 漢方セミナーの開催にあたって

東京女子医科大学 東洋医学研究所では、毎年夏に「若手医師のための夏季漢方入門セミナー」を開催し、今年で5回目になりました。

当施設は1992年3月3日に開設され、今年で22年目を迎えます。当時は大学で漢方医学を教えているところは珍しかったのですが、2001年に医学教育モデル・コアカリキュラムに「和漢薬を概説できる」という一項が明記されてからは、全医学部生が漢方医学の講義を受けることになりました。しかし、授業時間数、講義内容は大学間で違いがあり、また、十分な授業時間数の確保が難しいため、臨床医になったときに実践的に漢方薬を使用することは容易ではありません。たとえば、漢方治療では、同じ主訴・疾患でも異なる処方を選択する「同病異治」や、異なる主訴・疾患に対して同一の処方で治療する「異病同治」の考え方があるため、どのような症状や徴候に基づいて漢方医学的な診断を行い、治療に導いていくのが大切になります。

● 目的とプログラム

そこで、本セミナーでは、診断にいたる基本的な考え方、実践的な漢方薬の使用法、鍼灸医学入門について講義しました。講義を通じて、「見方を変えると問題の発見や解決が得られることがあること」や、「効く薬を選ぶことは当然ですが、それが効くようなコンディショニングが大切であること」、すなわち患者と治療者との人間的な繋がりをいかに築いていくことが重要であるかということを理解していただけるように考えています。

また、セミナーの特徴の一つである「ナイトディスカッション」(写真1)を取り入れ、実際の症例について、主訴から最終診断に至るまでの考え方を少人数で討論する、東京女子医科大学(以下、当大学)のテュートリアル方式を取り入れました。鑑別処方の解説を含めて、丁寧に症例検討をすることで、書籍では伝わらない行間を学べるように企画しました。

2013年は7月27日(土)と28日(日)(写真2)に



写真1 ナイトディスカッション(2013年7月27日)



写真2 集合写真(2013年7月28日)

東京女子医科大学病院で開催しました。暑さが厳しい中、多くの先生方にご参加いただきました。セミナーは2日間と時間に限りがあるため、どの診療科の先生も実臨床で経験することの多い疾患を中心に講義しました。7月27日(土)の午後は、当研究所の佐藤弘先生による漢方総論から始まり、当研究所の盛岡頼子先生による「女性と漢方」に続いて腹診実習を行いました。翌日は、杵淵彰先生(青山杵淵クリニック 所長)による「精神症状と漢方」と稲木一元先生(青山稲木クリニック 院長)による「呼吸器と漢方」に続いて、本セミナーの特別講義として松田邦夫先生(漢方医学研究所 松田医院 院長)による「医の心」についてご講演いただきました。午後は、鍼灸総論と実際に鍼と灸を体験していただく実習を行いました。

今年で5年目になり、当大学の漢方を体験された先生方が少しずつ増えてきたかと思います。本セミナーが契機となり、漢方医学への興味が湧き、日本漢方の魅力を感じていただくと幸いです。今後、歴史ある当大学の漢方を一層広めることで、日本漢方の理解を深める一助になれるよう、研究所一丸となって頑張っていきたいと思っております。